

コンクリートライブラリー131 古代ローマコンクリート
ーソンマ・ヴェスヴィアーナ遺跡から発掘されたコンクリートの調査と分析ー

正誤表

(第1版・第1刷を対象とする)

2010/12/24

ページ	行	誤	正
3	上から12行	できるだけ厚い	できるだけ熱い
3	下から5行	制約有り.	制約があった.
4	表2.1.1 299BC to 476AD の項	lime a volcanic	lime and a volcanic
4	表2.1.1 80ADの項	empire	empire
4	表2.1.1 128ADの項	un reinforced	unreinforced
4	表2.1.1 下欄外のC		C : https://fp.auburn.edu/heinmic/ConcreteHistory/Pages/timeline.htm
4	上から7行	Vitruvius	ウィトルウィウス
7	上から4行	が2.1とは異なるが,	が表2.1.1とは異なるが,
7	表2.2.2のタイトル	ウィトルーウィウス	ウィトルウィウス
10	下から2行	ケーソンを作成	ケーソンを作製
11	上から17行	古代ローマ建築のでは	古代ローマ建築では
12	上から7行	骨材石灰比率が3 : 1	骨材 : 石灰の比率が3 : 1
13	表2.2.7 表中左列の項目 名	建築書 (ウィトルーウィウス)	建築書 (ウィトルウィウス)
14	参考文献2)		土木学会コンクリート委員会, 2005 年制定コンクリート標準示方書, 規 準編, JIS規格集, p. 73, 土木学会, 2005.
17	参考文献6)	6) Cato, ローマンビルディング	6) Cato, De agricultura, XLIV, De fornace calcaria に基づき, Jean- Pierre Adam, La Construction Romaine: matériaux et techniques (英訳版 Anthony Mathews (tr.), Roman Building: Materials and Techniques, p. 70, 2005.) にて作 図.
53	参考文献7)	投稿中	7) 沢木大介, 坂井悦郎, 歴史的建造 物を構成するセメント系材料の統合 的化学分析手法, 無機マテリアル, Vol. 16, No. 340, 184-190, 2009
101	下から10行	(試料No#4.)	(試料#4)
104	図番号およびタ イトル	(左図) 図6.2.4 大谷石と水酸化カ ルシウムペースト硬化体の累積細孔 量の変化 (右図) 図6.2.4 大谷石と水酸化カ ルシウムペースト硬化体の累積細孔 量の変化	(左図) 図6.2.6 大谷石No.8と水酸 化カルシウムペースト硬化体の累積 細孔量の変化 (右図) 図6.2.7 大谷石No.8と水酸 化カルシウムペースト硬化体の細孔 径分布の変化